

大城ひかるのベトナム



通信

-28-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ

軍事境界線というところ、朝鮮半島の38度線が有名ですが、ベトナムにもかつて国を南北に分断していた17度線があります。その北緯17度が省を横断するクアンチ省は、前回もお伝えした通りベトナム戦争の激戦地。旧王都フエから口帰りで行ける戦争ツーリズムが盛んで、米軍基地があったラオス国境近くのケサン、17度線に沿って流れ



大きさが25cm×40cmしかないゲリラ戦用に出入りしたクチトンネル入り口(筆者撮影)

るベンハイ川とヒエンルオン橋、戦争終結まで地域住民が生活したヴィンモックトンネルは日本人にもぜひ訪れてほしいスポットです。

ベトナムには戦時中のトンネルがいくつも残っているそうです。中でもホーチミン郊外のクチトンネルと、クアンチのヴィンモックトンネルは有名です。沖縄にも海軍壕や自然洞窟のガマなど地下壕がたくさんありますが、ヴィンモックを見学した時、悲惨さがあまり感じられないので驚きました。

例えば、トンネル入り口は暗くて気味が悪かったです。高さが170cmほどあり、かがまなくてもスタスタ歩けます。またトンネルの両側には洞

トンネルに見る戦争の2つの顔

穴が掘られ、そこは各家庭の個室。トンネルで生活していた7年に17人の子どもが生まれたそうですから、スペースは小さくても最低限のプライバシーは守られていたでしょう。

トンネルからは海に出られるように設計されていました。ここは海上の敵を発見する戦略上重要な役割も担っていたそうで、屋外には空襲の爆弾穴がいくつもあります。しかし、薄暗いトンネルから外へ出たときの開放感が影響したのでしょうか、元気に駆け回る子どもの姿すら想像されます。ベトナム戦争と沖縄戦では25年の隔たりがありますが、「時代というのは四半世紀ではこうも大きく変わるものか」と思ったほどです。

一方、クチトンネルは印象が全く違いました。高温多湿のジャングルで、トンネルの中は高さ1mちょっとしかない、小柄な私ですらしゃがんで歩くのがやっとです。15〜20mおきに設けられた通気口には、軍用犬を使う米軍をかく乱するため、米兵の服が置かれました。体の大きな米兵がトンネルに入り込むのは難しそうですが、内部のそこかしこに餌が仕掛けられていて、ベトナム人の用意周到さがうかがえます。麻酔薬もなくココナツ水を点滴しながら行った手術室や、敵に見つからないように工夫



ヴィンモックトンネルは17度線の北側にありクアンチン省に近いです

された炊事場など、生を感じたヴィンモックとは異なり、クチでは死が強く意識させられました。クチは南ベトナム解放戦線がサイゴン(現在のホーチミン)を攻略するためのゲリラ戦の拠点。北西にはホーチミン川の最終地点だったタイニン省があり、総距離250kmにも及ぶ地下ネットワークとなっていました。見学の前にトンネルの紹介ビデオを見せられたのですが、困難の中、力を合わせて頑張ったと強調するモノクロ映像は逆に、人と人が殺し合う戦争の本質を語っているようでした。ベトナム戦争の記憶が薄れゆく中、若いベトナム人がその映像から誇りや勇敢さだけを感じ取らないようにと、願わずにはいられませんでした。

ご意見・ご質問をお聞かせください。oshiro@kaizen.edu.vn